タイ・カセサート大学単位互換プログラム報告書(9・10 月)

獣医学群獣医学類 5 年 丸山はづき

タイ王国に来て、早くも 1 ヶ月半が経とうとしています。カセサート大学カンペンセンキャンパスでの暮らしにもすっかり慣れ、英語に苦戦することもありますが、良き仲間に囲まれながら、勉強・プライベートともに充実した日々を送っております。

簡単ではありますが、9, 10 月の約 1 ヶ月半の様子を報告させていただきます。

○1 週目【Pathology unit】

1 週目は、病理学と寄生虫について学びました。特に印象に残っているのは、実際の症例の血液塗抹標本や血液検査結果をもとに、感染している血液寄生虫を推定し、確定診断に向けて PCR 検査や電気泳動を自ら実施したことです。PCR 検査や電気泳動などの基礎的な検査を行う機会はこれまであまりなかったため、ピペット操作などに苦戦することもありましたが、一連の検査を最初から最後まで自分の手で実施できたことは貴重な経験となりました。また、症例のデータや検査結果をもとに自分で考察したことで、理解を深めることができ、寄生虫についても改めて復習する良い機会になりました。



お世話になった先生方との 1 枚
失敗することもありましたが、丁寧に教えていただきました。

○2 週目【Swine unit】

2 週目は、豚の疾病・管理方法・病理学などについて学びました。実際に養豚場を見学し、その後みんなで農場の問題点や改善点などについてディスカッションし、理解を深めました。日本では未発生ですが、タイではアフリカ豚熱が発生しており、このコントロールをうまくできていない農場が多いそうです。感染症のコントロールを行う上でも、マネジメントまで行うことのできる獣医師の存在が必要不可欠だと感じました。現場を通して、農場管理について深く学ぶ良い機会になるとともに、農場管

理の重要さも改めて実感しました。また、1 人 1 頭、豚の剖検をする機会もいただきました。私は呼吸器症状を呈していた豚を剖検し、肺の重度の癒着病変などを観察することができました。農場管理から疾病の診断まで、豚に関する幅広い知識を学ぶ貴重な機会となりました。



豚の剖検
協力しながら 1 人 1 頭豚の剖検を行いました。

〇3 週目【Equine unit】

3 週目は、馬の臨床学について学びました。入院馬の管理や診療の様子を見学するとともに、聴診、静脈内・筋肉内注射、超音波検査などの基本的な診療手技も経験することができました。また、馬の去勢手術を見学する機会もあり、麻酔導入から覚醒までの過程や手術手技、麻酔管理についても学びました。多くの症例を見ましたが、メラノーマを発症した馬が印象に残っています。この馬の検査所見、鑑別診断、治療方針などについてみんなでディスカッションし、最後に症例発表も行いました。このユニットでは先生方に鋭い質問をされることも多く、自分の獣医学的知識や英語力の不足を痛感する場面が多々ありました。一方で、実際の診療や症例検討を通して、教科書だけでは得られない知識や技術を身につけることができました。

〇4,6 週目【Ruminant unit】

4 週目は酪農が盛んなノンポーで、6 週目はカンペンセンで、産業動物の実習に参加しました。Ruminant unit は私が今回のプログラムで最も楽しみにしていた実習です。日本でも往診や繁殖検診に同行する機会があったため、タイの農場や飼育環境、疾病、獣医師の仕事などを日本と比較しながら学ぶことができました。採血や麻酔などの手技に挑戦できる機会も多く、訪問先の農家さんとの交流も楽しく、非常に充実した実習になりました。

まずノンポーでは、やはり酪農地帯ということもあり、繁殖検診のための直腸検査をたくさんさせていただきました。タイの牛は日本の牛と比べて小柄な個体が多く、同じく小柄な私にとっては直腸検査がしやすかったです。日本では直腸検査に苦戦す

ることも多かったため、スムーズに検査を行えたことが印象に残っています。また、超音波検査にも挑戦し、苦手ながらも経験を重ね、少しコツが掴めるようになったと思います。ノンポーでは乳牛だけでなく、ヤギの分娩や肺炎、肉牛のバベシア感染疑いの症例など幅広い症例に触れることができました。また、過大胎子の難産症例にも遭遇し、迅速な判断や獣医師間の連携の重要性も学びました。この症例では、尾椎硬膜外麻酔に挑戦し、成功させることもできて嬉しかったです。

カンペンセンでも先生の往診や診療に同行し、様々な症例や処置を見ることができました。特に大脳皮質壊死症(PEM)疑いのヤギが印象に残っています。このヤギは入院したため、経過を観察しながら、鑑別診断、処置、治療、オーナーへの対応などについても考え、最終的に症例発表を行いました。

この２週間を通して、獣医学的な知識があれば、英語力が十分でなくても説明の理解が容易になり、自然に質問が出てくることに気がつきました。私はまだまだ勉強が必要だと実感し、今後も知識を深めていきたいと改めて感じました。また、英語力に自信がなくても、間違いを恐れずに自分の意見を伝えようとする姿勢が大切だということも学びました。



↑直腸検査中



↑採血に挑戦



↑尾椎硬膜外麻酔に挑戦



↑お世話になった先生方との１枚

○5 週目【Exotic unit】

5 週目は、エキゾチックアニマルについて学びました。日本ではエキゾチックアニマルについて実践的に学ぶ機会が限られていますが、タイではエキゾチックアニマルの診療が盛んであり、終始新鮮な気持ちで楽しく実習に参加することができました。実践的な内容も多く、ウサギの保定や爪切り、鼻涙管洗浄、カメの採血や皮下注射などを経験しました。また、カメの飼育施設やゾウの診療施設を訪問したほか、イノシシの歯科処置を見学する機会もあり、タイならではの獣医学に触れることができました。このほか、大学内の猛禽類保護施設では、猛禽類の身体検査や筋肉内注射を実践し、吹き矢を用いた麻酔方法についても学びました。日本では診療に携わる機会の少ない動物や診療方法を経験することができ、動物種ごとの身体的特徴や特性に応じた保定・麻酔・診療の重要性を実感しました。



↑カメのレントゲン
全員で協力して行いました。かなり体力を使いました。



↑カメの採血に挑戦
無事成功しました！

○授業以外の過ごし方

週末には、バンコクやプーケット、チェンマイなどを訪れ、タイの文化やさまざまなアクティビティを満喫しています。タイにはまだまだ訪れてみたい場所や体験してみたいことがたくさんあるので、残り少ない週末も大切に過ごしていきたいと思います。

タイの食事は、自分の口に合うか少し不安もありましたが、どの料理もとてもおいしく、その心配はすぐになくなりました。特に、さまざまな食べ物を手頃な価格で楽しめるマーケット文化が気に入っており、ほぼ毎日のように足を運んでいます。

また、タイの友人たちがとても親切にしてくれ、一緒に食事に出かけたり、バドミントンをしたりと、日々交流を楽しんでいます。留学の魅力の一つは、現地の友人たちと出会い、交流できることだと感じています。友人たちからは学ぶことや刺激を受けることも多く、日々感謝しています。

楽しいことばかりではなく、悩んだり反省したりすることもありますが、それらも含めて充実した留学生活を送ることができています。残りの期間も１日１日を大切にし、勉強にもプライベートにも積極的に取り組んでいきたいと思います。



タイの友人たちとの１枚
毎週楽しく、バトミントンをしています。



↑プーケット・シミラン諸島への旅行
北大生、ハンガリーの学生と旅行しました。人生で１番美しい海で感動！



↑タイ・パタヤのサンクチュアリ・オブ・トゥルース
金属製の釘を一切使用していない美しい木造建築に圧倒しました。